

平成25年9月6日

公立大学法人宮城大学
理事長 西垣 克 殿

公立大学法人宮城大学評価委員会
委員長 角山 茂章

公立大学法人宮城大学の業務の実績に関する評価結果（平成24年度）
について（通知）

このことについて、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項の規定により、別紙のとおり評価を行いましたので、同条第3項の規定により通知します。

公立大学法人宮城大学評価委員会事務局
（宮城県総務部私学文書課内）
担当：公立大学・公益法人班 阿部
TEL：022-211-2295

公立大学法人宮城大学の
業務の実績に関する評価結果
(平成24年度)

平成25年9月

公立大学法人宮城大学評価委員会

目 次

I 評価の考え方	1
II 項目別評価	1
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育に関する目標を達成するための措置	
(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置	
イ 学士課程	2
ロ 大学院課程	2
(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置	
イ 入学者受入方針・入学者選抜	
(イ) 学士課程	2
(ロ) 大学院課程	2
ロ 教育課程	
(イ) 学士課程	3
(ロ) 大学院課程	3
ハ 教育方法	
(イ) 学士課程	3
(ロ) 大学院課程	4
ニ 成績評価	
(イ) 学士課程	4
(ロ) 大学院課程	4
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	
イ 適正な教員配置	4
ロ 教育及び教員の質の向上	4
ハ 教育環境の整備	5
(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置	
イ 学習支援	5
ロ 生活支援	5
ハ 就職支援	5
ニ 経済的支援	6
ホ 社会人・留学生への支援	6
2 研究に関する目標を達成するための措置	
(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置	
イ 研究の方向性	6
ロ 研究水準の向上	6
ハ 研究成果の地域社会への還元	6
(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	
イ 研究の実施体制	6
ロ 研究費の配分	7
ハ 研究者の配置	7
ニ 研究環境の整備	7
ホ 研究活動の評価	7
ヘ 知的財産の創出	7

第2	地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	地域貢献に関する目標を達成するための措置	
	(1) 県民の高等教育機関としての役割	8
	(2) 地域社会への貢献	8
	(3) 産学官の連携	8
	(4) 大学間の連携	8
2	国際交流等に関する目標を達成するための措置	8
第3	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	運営体制の改善に関する目標を達成するための措置	
	(1) 理事長を中心とする運営体制の構築	9
	(2) 戦略的な予算等の配分	9
	(3) 学外の有識者等の登用	9
2	教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置	9
3	人事の適正化に関する目標を達成するための措置	
	(1) 人事制度	10
	(2) 評価制度	10
4	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	
	(1) 事務組織の見直し	10
	(2) 事務の効率化	10
第4	財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	
	(1) 外部資金の獲得	10
	(2) 自己収入の確保	11
	(3) 授業料等の適切な設定	11
2	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	11
3	資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置	11
第5	教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	
1	自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置	11
2	情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置	12
第6	その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	
1	施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	12
2	安全管理等に関する目標を達成するための措置	12
3	人権の尊重に関する目標を達成するための措置	12
III	全体評価	13

公立大学法人宮城大学の業務の実績に関する評価結果（平成24年度）

I 評価の考え方

公立大学法人宮城大学評価委員会は、公立大学法人宮城大学（以下「法人」という。）の平成24年度業務の実績について、法人が提出した業務実績報告書、法人からのヒアリング等に基づき「項目別評価」及び「全体評価」を行った。

「項目別評価」は、法人の自己評価（Ⅰ～Ⅳ）の妥当性について調査・分析し、項目ごとに「S～D」の5段階で評定するとともに、法人の業務運営において評価すべき点や改善すべき点が明らかになるよう、評定に当たっての意見等を示すこととした。

「全体評価」は、項目別評価の結果を踏まえた上で、教育研究の質の向上や教育研究成果の社会への還元に結びついたら認められる取組とともに、課題とする点や法人に対する要望等を総括的に示した。

II 項目別評価

《評定の状況》

（単位：件）

項目	S 特筆すべき進捗状況にある	A 年度計画を順調に実施している	B 年度計画をおおむね順調に実施している	C 年度計画の実施にやや遅れがある	D 年度計画の実施が遅れており、重大な改善事項がある	年度計画なし (評定対象外)	計
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置							
1 教育に関する目標を達成するための措置		17				1	18
2 研究に関する目標を達成するための措置		8		1			9
第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	1	4					5
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置		8					8
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	1	4					5
第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置		2					2
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	1	2					3
全体	3	45		1		1	50

第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

イ 学士課程（法人自己評価項目No.1～7）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 共通教育は、自然科学のリメディアル科目を新設するなど、講義内容の充実を図っている点が評価できる。
- ・ 専門教育は、各学部のカリキュラムに工夫が見られ、地域社会に適応できる人材育成に一役買っている。
- ・ 学士課程教育のあり方、教育内容について絶えず見直しを行い、改善措置を迅速に実行に移している点は高い評価に値する。一方、入学者の目線に合わせた教育と同時に、宮城大学は何を目指しているのか、またその実現に向けて学生は何を期待されているのかを絶えず内外に発信することが重要である。

ロ 大学院課程（法人自己評価項目No.8～15）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 食産業学研究科博士後期課程の設置認可申請を行い、認可を得たことを高く評価する。
- ・ 各研究科とも博士課程カリキュラムの充実に向けた取組や、新たな分野の開設に向けた準備を精力的に進めていることは評価できる。

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

イ 入学者受入方針・入学者選抜

(イ) 学士課程（法人自己評価項目No.16～22）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 公立大学であることはそれ自体が一定の社会的評価の裏付けとなっており、一定の志願倍率を確保していることは大変望ましいことであるが、宮城の大学の枠を超えて志願者を確保する努力を継続する必要がある。
- ・ 入学者確保に向けた積極的な取組は、倍率向上などに現れており、評価できる。
- ・ 食産業学部の宮城県内入学生の低下が懸念される。
- ・ 学長自身を含めて、皆それぞれが宮城大学のPRにコミットしていることは明らかであり、このことが全体として大学への関心を高めている。

(ロ) 大学院課程（法人自己評価項目No.23～27）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 飛び級入学や早期卒業については、必要に迫られていないのであれば無理に取り入れる必要はないのではないか。
- ・ 広報活動の方法でマスコミ活用等の工夫が欲しい。

ロ 教育課程

(イ) 学士課程（法人自己評価項目No.28～49）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 語学教育の充実に向けた様々な取組が行われていることは評価に値する。語学や情報教育の分野では、一定のレベルを保証すると同時に上級課程を設け、高いレベルを目指す学生の要求に応えることが重要である。
- ・ 語学学習への関心を高めるため素晴らしい努力をしている。中国語と韓国語への関心は低下しているが、ベトナムとの良好な関係を築いていることを土台に、東アジアと東南アジアからより多くの学生を引き付ける強い動機になっていると思われる。
- ・ 人間形成科目の中に宗教学まで入っているのは興味深い。リアル・アジアプログラムも良い。
- ・ 基礎ゼミの中に東日本大震災に関連する防災教育を取り入れていることは、素晴らしい取組である。受講者も増えていることは望ましい。
- ・ 大学入学をめぐる競争と18歳人口の減少する現状では、すべての大学は、自らの明確なブランドを持つ必要がある。ベトナムは、宮城大学のブランドを形成する一つの重要な要素となると思われる。

(ロ) 大学院課程（法人自己評価項目No.50～62）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 事業構想学研究科の夜間開講特別講義で、受講生がかなり増加しており、ニーズに応えたものとなっている。
- ・ 単位互換制度導入への具体的施策が欲しい。

ハ 教育方法

(イ) 学士課程（法人自己評価項目No.63～79）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 英語講義の受講者が後期に激減したとのことであるが、その要因を調査し、次年度の対策に生かして欲しい。
- ・ 取得単位の中で、共通科目の単位を拡充したりカテゴリを超えて選択可能な単位数を確保

したりと、柔軟な運用を目指していることは評価したい。望ましい方向と考える。

(ロ) 大学院課程 (法人自己評価項目No.80～93)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 食産業学研究科では、東北をこれまでの「食料の供給基地」としての位置づけから「食文化の発信基地」への展開の可能性についての研究を一層進めて欲しい。
- ・ 震災関連の課題を設定し、フィールドワークをしていることは評価したい。今後も是非継続して欲しい。

二 成績評価

(イ) 学士課程 (法人自己評価項目No.94)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ GPA成績管理の導入に向けた取組には注目したい。この制度の評価・分析を行っていただきたい。
- ・ 成績評価制度としてGPAの導入は、世界基準に対するベンチマーキングが容易になり、国際的な競争がますます助長されることになると思われる。

(ロ) 大学院課程 (法人自己評価項目No.95～96)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 学位審査に外部審査委員を導入することは自然な方向であると考えている。実際に利用していただきたい。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

イ 適正な教員配置 (法人自己評価項目No.97～104)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 人事は原則公募であること、模擬授業・プレゼンテーションを実施していることは評価できる。
- ・ 相応な教員とスタッフを確実に任用するために適切に時間を費やしていると考えている。

ロ 教育及び教員の質の向上 (法人自己評価項目No.105～110)

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 教員評価については、他大学に比べかなり踏み込んだ取組が行われていると評価できるが、形式的な評価に偏らない工夫が必要である。
- ・ 研究費による海外研修制度について、せっかくの制度が利用されていないのは残念である。積極的にこの制度を利用して欲しい。
- ・ ほとんどの大学で同様の問題に直面しているが、教員評価において主観的な要素を排除することは難しい。能力給という要素は重要だが、評価を給与に結びつける場合には、この問題は更に難しくなる。

ハ 教育環境の整備（法人自己評価項目No.111～115）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 物理的な環境としては大変恵まれた条件を備えているので、なお一層有効活用に向けた工夫をすべきである。
- ・ 学生に合わせた図書館の使い方、資料収集法、研究法の支援のため、データベース講習会等を行った結果、図書館利用の質の向上が見られたことは、良いと思う。
- ・ 学生の図書館利用の質の向上があったことは素晴らしい。適切な指導のたまものであると判断する。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

イ 学習支援（法人自己評価項目No.116～120）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 休学者に対する手厚い対応は評価したい。

ロ 生活支援（法人自己評価項目No.121～125）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 生活実態調査は、定点調査として定期的に行うことが望ましいと考える。

ハ 就職支援（法人自己評価項目No.126～137）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ インターンシップ参加率が高く評価に値する。
- ・ 宮城大学は素晴らしい就職実績を誇っている。これは将来の宮城大学にとって、良い兆候である。

ニ 経済的支援（法人自己評価項目No.一）

【評定】平成24年度計画なしのため評定しない。

ホ 社会人・留学生への支援（法人自己評価項目No.138～139）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 看護学研究科のサテライトキャンパスにおける開講や夜間開講の努力に敬意を表したい。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

イ 研究の方向性（法人自己評価項目No.140～144）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 県内地域等、地元との研究件数が伸び悩んでいるが、数値目標自体の合理性について再検討してもよいのではないかと。

ロ 研究水準の向上（法人自己評価項目No.145～146）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 学内紀要を廃止したが、順調に成果発表件数・論文数が増加していることは評価したい。

ハ 研究成果の地域社会への還元（法人自己評価項目No.147～150）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「IV 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 地域連携シンポジウム、公開講座、セミナー等、29もの企画が行われ、目標を遙かに上回ったことは素晴らしい。

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

イ 研究の実施体制（法人自己評価項目No.151～154）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「III 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 科研費獲得のための様々な支援を行うことは必須であると考え。さらに充実していただきたい。
- ・ 研究委員会が外部資金獲得への取組を一元化したことにより、研究管理の効率が向上し、科研費の獲得率が向上するなど競争的資金獲得も増加している。

ロ 研究費の配分（法人自己評価項目No.155～159）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 研究費をいかに公正に配分するかという問題は、すべての大学に共通する論点である。全教員が同じ金額を受け取るべきという主張がある一方で、きちんと研究に取り組んだ教員にはより多く配分すべきという考えもある。

ハ 研究者の配置（法人自己評価項目No.160～161）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 教員採用に当たって、研究力4割、教育力3割、組織人力3割というウェイト付けとしていることを評価する。このことは、宮城大学が研究を推進していることを示しており、次の段階ではより研究に基調を置いた教育につながってくと考えられる。

ニ 研究環境の整備（法人自己評価項目No.162～167）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 教員の研究時間の確保はなかなか難しいことではあるが、引き続き改善の方策を見出していきたい。

ホ 研究活動の評価（法人自己評価項目No.168）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ より満足できる評価への模索が行われていると理解する。
- ・ 多くの西側諸国では、全国レベルで研究活動の評価が実施されているが、日本にはそのような制度がないので、各大学では、研究の評価に関して委員会を設置して、緻密かつ公平に評価することが重要である。また、その評価をどのようにして個々の教員にフィードバックするかということも大切である。

ヘ 知的財産の創出（法人自己評価項目No.169～171）

【評定】C 年度計画の実施にやや遅れがある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定は「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」がおおむね90%未満であり、当委員会としては、年度計画

の実施にやや遅れがあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 知的財産のデータベース化にやや遅れが見られる。

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置

(1) 県民の高等教育機関としての役割（法人自己評価項目No.172～175）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 志願倍率、入学率等が高く、入学者をしっかりと確保していると評価できる。
- ・ 食産業学部の宮城県内入学者比率は低下している。
- ・ 学長、副学長及びその他の役員が大学のマーケティングにおいて積極的に役割を果たしている。

(2) 地域社会への貢献（法人自己評価項目No.176～178）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。
- ・ 大学間の連携はまだまだポテンシャルはあると思うので、今後の更なる取組を期待する。

(3) 産学官の連携（法人自己評価項目No.179～182）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 連携内容の充実が図られており、評価できる。

(4) 大学間の連携（法人自己評価項目No.183）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

2 国際交流等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.184～192）

【評定】 S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」であり、な

おかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから、当委員会としては、特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ この項目に大変力を入れて進められたことがうかがえ、学生たちを大きく成長させたと考えられる。引き続きこの水準を保って欲しい。
- ・ 連携している海外エリアが偏っているとも言える。
- ・ グローバル人材の育成については、その内容を充実させる必要があり、「リアル・アジア」のようなプログラムや外務省キズナ強化プロジェクトでの成功は非常に有意義である。特に「リアル・アジア」は宮城大学のブランドの一部になっており、このことは、大学間競争が激しくなるにつれて今後ますます重要になると考えられる。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

(1) 理事長を中心とする運営体制の構築（法人自己評価項目No.193～200）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ SD研修及びFD研修の効果への疑問もあるが、職員及び教員全員の参加を求めていることは評価できる。

(2) 戦略的な予算等の配分（法人自己評価項目No.201）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 限られた予算の財源を戦略的に配分することは、宮城大学の将来にとって極めて重要であり、宮城大学においては慎重に検討確認されていると考える。

(3) 学外の有識者等の登用（法人自己評価項目No.202～203）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.204～205）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

(1) 人事制度（法人自己評価項目No.206～213）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ プロパーの事務職員が順調に増加していることは評価できる。
- ・ 教員採用に当たり、外部専門委員を活用するというのは良い取組である。なお、任期制の推進については、新しい労働契約法も考慮に入れた取組が必要である。

(2) 評価制度（法人自己評価項目No.214～217）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 評価方法を常に改善しようとする姿勢は評価できる。
- ・ 能力給制度については慎重な熟慮を必要とする多くの論点があるが、最も重要な視点は、教員がそのプロセスに確実に関わられるように保障することであり、評価の全過程が透明で細やかであることが必要と考える。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

(1) 事務組織の見直し（法人自己評価項目No.218～219）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

(2) 事務の効率化（法人自己評価項目No.220～223）

【評定】A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

(1) 外部資金の獲得（法人自己評価項目No.224～228）

【評定】S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」であり、なおかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから、当委員会としては、特筆すべき

進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 件数、金額とも昨年を大きく上回っており特筆すべき進捗状況といえる。今後も更なる増加を期待したい。
- ・ 近年、外部資金の獲得競争が激化しているが、大学のあり様としてそれがどのような意味を持つのかが問われるべきであるように思われる。

(2) 自己収入の確保（法人自己評価項目No.229～231）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

(3) 授業料等の適切な設定（法人自己評価項目No.232～234）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.235～238）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.239～240）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 透明性を確保するため、定期的な学内開示が必要である。

第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.241～244）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ アンケート調査は手間・暇・資金のかかるものである。しっかりと分析し、結果を活用していただきたい。
- ・ 宮城大学は、授業評価や満足度調査など様々な調査を行うためにかなりの努力をしていると評価できる。この調査結果がどのように分析され、行動に移されるかが重要だが、例えば卒業時に実施される満足度調査は、他の時期と比較して好意的になりやすいということや、低い評価の授業が必ずしも教え方が拙いことを意味するわけではないことを意識する必要がある。

2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.245～247）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ ウェブサイトが第一のマーケティング手法であることを心に留めておくことは重要である。

第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.248～251）

【評定】 S 特筆すべき進捗状況にある。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、なおかつ特筆すべき優れた実績・成果が認められることから、当委員会としては、特筆すべき進捗状況にあると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ この状況下で、大規模修繕が滞りなく進捗していることは評価できる。

2 安全管理等に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.252～255）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 来るべき次の災害に備えをしていることは評価できる。

3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置（法人自己評価項目No.256～258）

【評定】 A 年度計画を順調に実施している。

【評定の理由】

- ・ 法人自己評価の評定はすべて「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」であり、当委員会としては、年度計画を順調に実施していると判断する。

【評定に当たっての意見等】

- ・ 年度計画を順調に実施していると評価できる。

Ⅲ 全体評価

平成24年度は、未曾有の被害をもたらした東日本大震災からの復興元年と位置付けられ、県内において、生活環境やインフラの復旧、経済基盤や地域コミュニティの再構築など、復興に向けた様々な取組が進められた1年であった。

一方、大学に求められている役割は、知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤となる知識基盤社会にあつてますます重要なものとなつてきており、特にグローバル人材の育成や、地域活性化の中核的拠点としての機能など、大学の持つ専門性や多様性、地域の特性を踏まえた取組が求められている。

そのような状況の中、法人が行った取組や実績について、次のとおり評価する。

教育に関しては、基礎的な知識や素養を持った人材を養成するため、自然科学のリメディアル科目の新設や英語による講義の内容充実を図るなど共通教育の充実に向けた積極的な取組が見られた。また、学術情報リテラシー教育の充実により学生の図書館利用の質の向上が図られたことや、キャリア開発センターと各学部との連携による就職支援を進めた結果、97.6%という全国的に見ても高い就職率を実現したことは大いに評価できる。食産業研究科博士後期課程の新設についても計画どおり平成25年4月からの設置認可を受けており、総じて、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

研究に関しては、昨年度に引き続き震災復興特別研究費を予算計上し、震災復興に貢献する研究を推進したことや、地域連携シンポジウム、公開講座、セミナーなどの企画を、目標を上回る29企画実施したことは、地域社会の課題やニーズに対応し、研究成果を積極的に地域還元した取組として高く評価できる。また、国際ジャーナルなどへの論文掲載数も順調に増加している。知的財産のデータベース化などに若干の進捗の遅れが見られるものの、年度計画をおおむね順調に実施しているものと評価する。

地域貢献等に関しては、文部科学省や経済同友会からの補助金など外部資金を活用した震災復興関連プロジェクトを実施することにより、南三陸町など被災地域への復興支援活動を行ったことや、県内就職率が昨年度を3.5ポイント上回る51.1%となったこと、県内自治体との連携数が昨年から3件増加し7件となったことなどが評価できる。また、国際交流や海外大学との連携では、グローバルインターンシップや留学生の派遣などに積極的な取組が見られ、特筆すべき進捗状況と認められる。なかでも、独自のベトナム研修、グローバル・インターンシップ・プログラムとして実施した「リアル・アジア」は、グローバル人材の育成が求められるなか、他大学に対して優位性を持つ宮城大学のブランドの一部として定着することを期待する。全体的には、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

業務運営の改善等に関しては、教員採用時の外部専門委員への意見聴取や、プロパー職員の積極的な採用などが評価できる。また、事務部の組織改編で大和キャンパスと太白キャンパスの連携が密になり、教育関係の業務運営の効率化と強化が図られたことも評価できる。今後も理事長を中心とした運営体制のもと、教員及び事務職員の質や意欲の向上に資するさらなる取組に期待する。全体としては、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

財務内容の改善に関しては、インセンティブ措置や研修会実施などの工夫により、科学研究費補助金の獲得者率が前年度の31.5%から39.0%に上昇し、外部資金獲得額が、中期計画目標である2億円を上回る約2億4,600万円となるなど、特筆すべき進捗が見られた。この成果が次年度以降も継続されることを期待したい。また、予算編成に当たり、重点事項や削減率配分等を示しメリハリある予算配分に努めるなど、経費削減の努力も認められることから、総じて、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

自己点検・評価、情報提供に関しては、学校教育法に基づく認証評価機関の評価が次年度に予定されており、その準備が進められているが、さらなる大学運営の改善に役立てられることを期待する。また、規程集、予算、組織、研究費情報及び各種議事録を公開するなど、情報公開に関しても内外に対して透明性の高い運営を行っていることから、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

その他業務運営に関しては、施設有効活用検討委員会を設置し、就学環境改善のため計画的な施設整備を行っていることなどが特に評価できる。また、安全管理や人権侵害防止についても継続した取組が見られることから、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

法人による自己評価結果については、法人自己評価258項目中257項目が「Ⅳ 年度計画を大幅に上回って実施している」又は「Ⅲ 年度計画を予定どおり実施している」とされている。

当委員会としては、項目別評価の結果を踏まえ、法人の平成24年度業務の実績について、理事長及び理事会を軸とした運営体制のもと、自主的・自律的で効果的・効率的な運営に向けて、年度計画を順調に実施しているものと評価する。

平成25年5月の教育再生実行会議による第三次提言では、これからの大学のあり方について、グローバル化への対応、イノベーションの創出、学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能の強化、社会人の学び直し機能の強化、ガバナンス改革・経営基盤の強化という国家戦略として取組むべき5つの方策が示されたが、宮城大学においても、これらの課題に向き合いつつ、地域再生の拠点として、教育・研究の成果を広く社会に還元し、中期目標の実現に向けて教職員が一丸となって取り組まれることを期待するものである。